

うじまさ 北条氏政

小田原北条氏は、伊勢盛時（北条早雲）を祖とする戦国大名で、豊臣秀吉に滅ぼされるまでは関東の大半を支配していた一族です。室町幕府に仕えていた伊勢盛時は、姉が今川氏に嫁いでいた縁で駿河国（静岡県）に下向し、伊豆国（静岡県）を奪った後に明応4年（1495）相模國小田原城（神奈川県）を奪い本拠地としました。息子の2代氏綱・孫の3代氏康の時代には、古河公方足利氏や関東管領上杉氏らと争い勝利し、武蔵国（埼玉県・東京都）、上総国（千葉県）、下総国（千葉県・茨城の一部）など南関東の大半を支配するようになりました。

北条氏政（1538～1590年）は、小田原城主北条氏康の次男に生まれ、兄の早世で永禄2年（1559）家督を継ぎ北条氏4代目当主となりました。武田信玄、上杉謙信と同盟、交戦をくりかえし、上野国・下野国（栃木県）など北関東に勢力を拡大しました。天正8年（1580）子の氏直に家督をゆずり「御隠居様」などと敬称され後見役となりました。

その後、天下統一を進める豊臣秀吉の上洛要求に最後まで応じず、天正18年（1590）豊臣秀吉の小田原征伐に際し最終的に小田原籠城を決断したとされます。降伏後、秀吉の命で弟^{うじてる}氏照とともに自刃しました。なお当時上野国は、真田氏の支配地を除き北条氏の領国となっており、由良・長尾氏など国衆も小田原城か支城に籠城し、北条氏とともに滅亡しました。

うじくに 北条氏邦

北条氏政の弟・北条氏邦（1548～1597 年）は、武蔵国天神山城（埼玉県）の城主藤田重利の養子となり、はじめ藤田氏邦と称しました。その後、武蔵国鉢形城（埼玉県）に移り城領の支配と経営にあたりました。

永禄 12 年（1569）北条氏と越後の上杉謙信との相越（越相）同盟締結に尽力しますが、元亀 2 年（1571）破棄されると、兄氏政の命を受け北条氏の上野国進出と領国化において中心的役割を果たしました。この結果、北谷（三波川谷、藤岡市）が北条氏の支配下に入ると、飯塚氏など地侍や村にあてた北条氏邦朱印状が 7 点、その宿老猪俣邦憲の判物が 2 点、飯塚馨家文書に残されています。

最後まで残った真田氏との沼田領問題も、豊臣秀吉の裁定で沼田領の三分の二が北条方となり、天正 17 年（1589）氏邦が沼田城を請け取り宿老猪俣邦憲に管轄させました。しかし真田方に残された名胡桃城（みなかみ町）で内紛が起こると、10 月猪俣邦憲は軍勢を送り奪取してしまいます。北条方が猪俣邦憲らを処分しないため、豊臣秀吉は激怒し小田原征伐を発動することになります。小田原籠城に反対し兄氏政と決別した氏邦は、鉢形城で豊臣方と戦うものの降伏、前田利家に預けられそのまま家臣となり、慶長 2 年（1597）加賀国金沢（石川県）で死去しました。